



■ 保健環境研究センター4月だより～奈良県におけるノロウイルスの発生動向～



【保健環境研究センター4月だより ～奈良県におけるノロウイルスの発生動向～】

ノロウイルスは、冬季の代表的な胃腸炎ウイルスで、しばしば集団感染症や食中毒を引き起こします。当センターでは、世界的に大流行がみられた2006/2007シーズン以降奈良県におけるノロウイルスの遺伝子学的解析調査を行っています。今回は、2009/2010シーズンまでの総括および2010/2011シーズンの流行についてご報告します。

表. ノロウイルス検出状況(2009/2010)

遺伝子群	遺伝子型	集団例(事例数)	散発例
GI	3	0	0
	4	4	2
	8	0	2
	不明	1	0
	小計	5	4
GII	2	11	13
	3	0	1
	4	11	19
	13	1	3
	不明	4	0
小計	27	36	
合計		32	40

ノロウイルスは、遺伝子群としてGIおよびGIIに分類され、それぞれ少なくとも14および17の遺伝子型に分類されています。2009/2010シーズンの検出結果を、感染症発生動向調査の検体(散発事例)および集団(食中毒含む)事例について表に示します。散発、集団ともに検出されたのは圧倒的にGIIが多く、GIは1割程度です。2006/2007年以降のGII遺伝子型別頻度の推移(図1)から、大流行を起こしたGII/4型ウイルスが年を追って割合が減少し、遺伝子型種の多様化傾向が見てとれます。これは、GII/4型の流行により多くの人が免疫を獲得したためと考えられます。さらに、詳細な遺伝子系統解析から、2009/2010シーズンにはGII/4型の変異株の出現が確認されています(図2)。新たなGII/4(2008a)株は、わが国では2008年に新潟県で初めて確認されたもので、中和抗原基に変異があるため今後の発生動向に注意が必要と考えています。

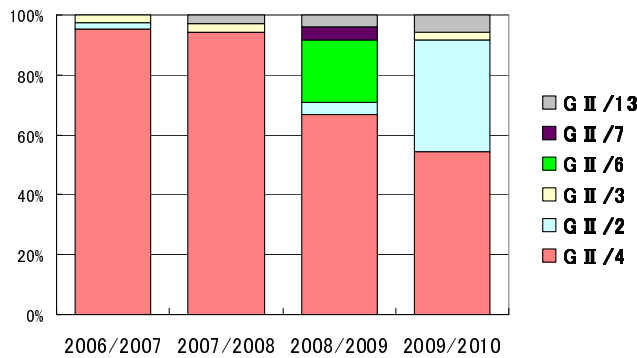


図1. ノロウイルス遺伝子型別検出状況 (2006/2007～2009/2010)

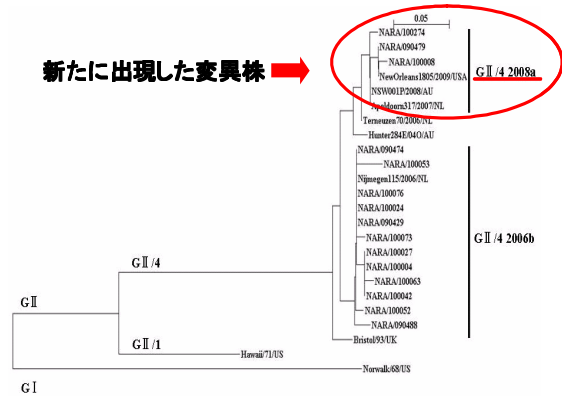


図2. ノロウイルス遺伝子系統樹(2009/2010)

次に、2010/2011シーズンの状況は、「ノロウイルス検出状況」でお示したとおりGIIが圧倒的多数を占め、集団事例は県中西部に集中するという特徴がみられました。今後、詳細な解析を実施し、別の機会に結果をご報告したいと思います。

最後になりましたが、ノロウイルスの流行予測には平時の監視が重要です。病原体定点の先生方には、引き続き検体採取にご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

(ウイルスチーム 井上 記)